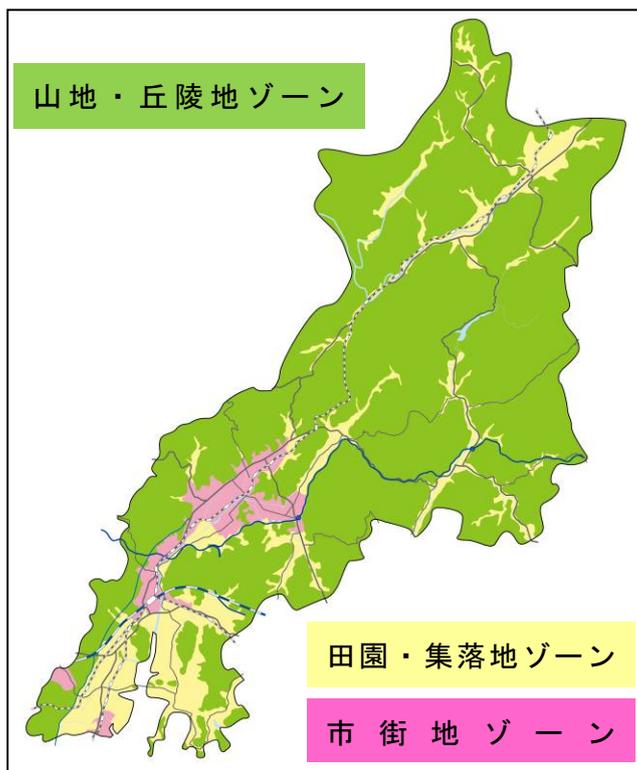


「【A】景域別の配慮事項の確認」と「【B】ゾーン別の配慮事項への適合審査」を行うプロセスを通じて、地域の景観形成への理解を深めていただくとともに、行為者による主体的な景観まちづくりを誘導します。

【B】ゾーン別の配慮事項

本市では、都市計画に基づく土地利用特性や地形などに応じた、様々な景観を見ることが出来ます。こうした地域固有の景観の形成及び保全を図るため、景観特性に応じて市域を3つのゾーンに区分し、ゾーン別に景観形成基準を定めることで、景観コントロールを行います。

市街地ゾーン（用途地域が指定されている区域）においては、魅力ある市街地景観の形成を図るとともに、田園・集落地ゾーン、山地・丘陵地ゾーンにおいては、田園・自然景観の適切な保全を図るため、ゾーン別に定めた景観形成基準への適合性を審査します。



基準内容

ゾーン別に定める 景観形成基準

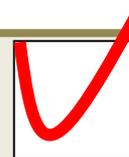
⇒届出対象行為の種類毎に、配慮を求める項目を定めており、該当する基準については、全て適合させる必要があります。

※景観形成重点地区では、別途方針・基準を設けていることから、「景域別の配慮事項」の確認及び「ゾーン別の配慮事項」への適合は必要ありません。

行為地の土地利用の状況を踏まえ、ゾーン別に示されている景観形成基準に基づき、

計画内容の適合性を市が審査

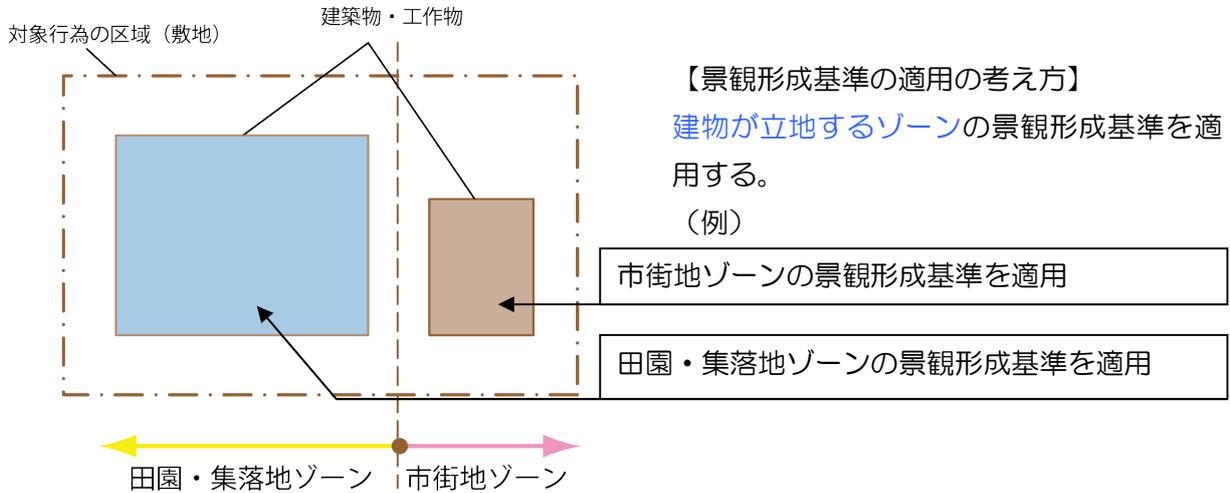
（『景観形成基準チェックシート（様式第11号）』を使用）



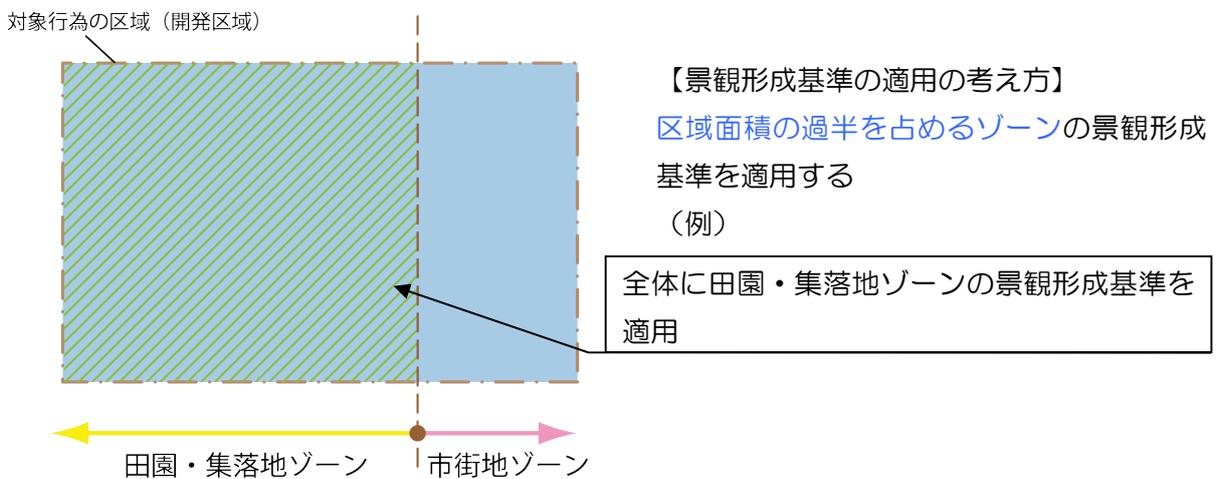
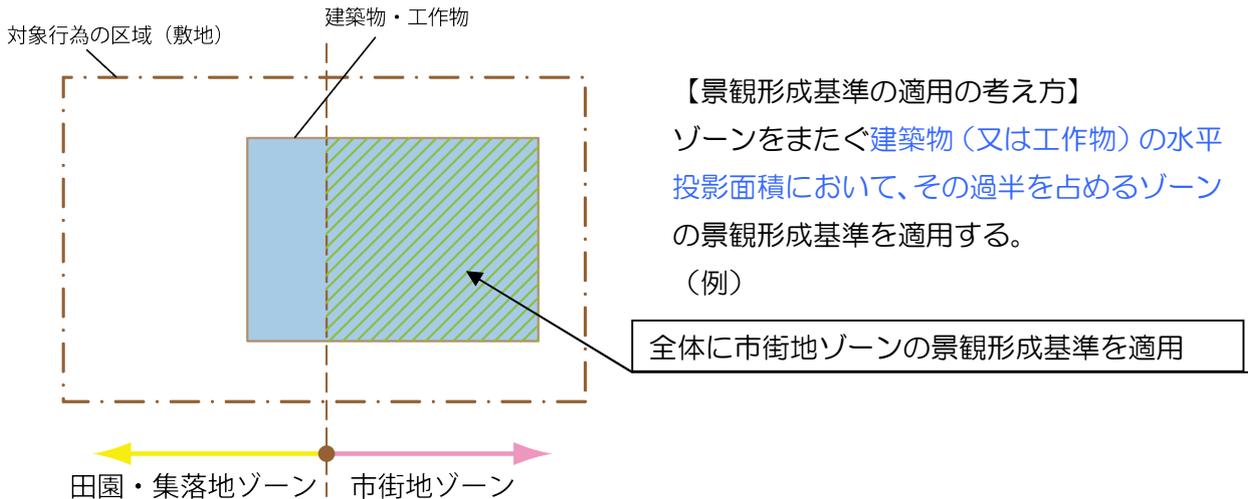
Check

2. 行為が複数の適用区域にまたがる場合の考え方

▼建物等が適用区域をまたがない場合



▼建物等が適用区域をまたぐ場合



※景域の場合も同じ